

はじめに

副校長 阿部 裕子

今年度は「児童生徒一人一人が主体的に学び、学びを広げる姿を目指した国語の授業づくり」をテーマに研究を進めた2年研究のまとめの年でした。全ての学習の基礎となる国語科を取り上げ、「適切な言語環境づくり」「具体的に考える場面の設定と工夫」を共通実践事項に掲げ、教師自身が「言語環境」の一つであることを意識して日常の授業実践を行いました。授業を見合う会として行った一人一授業の実践を中心に、教師自身が児童生徒の成長を実感できた研究でもありました。

「がんばり発表会」でこれまでの学習について、友達の前で胸を張って発表する小学部生、「販売会や地域の方との交流会」で、製品の特徴や用途、作業工程など、体験したことを交え説明する中学部生、「せんぼくいきいき5デイズ」などで、観光客と積極的にやり取りし交流を深める高等部生など、様々な場面で国語科の学びを広げ、自分の思いを言葉で伝える姿が見られました。

伝わったようで伝わっていない、伝えたいけれど適当な言葉が見つからない、といったジレンマを子どもたちはかかえ、「伝える」ことをあきらめることもしばしばあるように思います。本研究をとおして、身に付けた「伝える力」を生かし、子どもたちが言葉の力を実感し、地域や社会とつながる自信を一層深めて欲しいと願います。

結びになりましたが、本研究を進めるにあたり、全校授業研究会や授業づくり研修会においてたくさんの御指導、御助言をいただいた秋田大学大学院 藤井慶博 教授、大仙市立太田東小学校 櫻田武 校長先生、大曲支援学校 大川康博 教育専門監に改めて感謝申し上げます。併せて、本紀要を御高覧いただきました皆様より、忌憚のない御意見・御指導をいただきますようお願い申し上げます。